



# 東京都へき地医療支援機構通信

令和4年度 秋号 (9号)

【編集・発行】 東京都へき地医療支援機構



東京都の島しょ地域(伊豆諸島・小笠原諸島)には、碧い海に囲まれた、大小合わせて 11 の有人離島があります。島ごとに異なる自然や文化があり、魅力多彩です。今号では、そんな島しょ地域のうち、伊豆諸島南部エリアにある公立医療機関を御紹介します。また、三宅島と八丈島の医療従事者の皆さんから仕事や島での生活についてお聞きしましたので、ぜひ御覧ください。

## 伊豆諸島南部エリア 三宅村・御蔵村・八丈町・青ヶ島村

南北に長く延びる伊豆諸島のうち、三宅島以南の御蔵島、八丈島、青ヶ島の4島が南部地域とよばれています。

三宅島や八丈島、青ヶ島では火山活動によって生まれた景勝地があり、カルデラ地帯を散策できるなどダイナミックな風景が楽しめます。御蔵島では、野生のイルカと出会えるドルフィンスイムが有名です。島寿司や島焼酎など独自に進化したグルメも味わえます。

### ★東京から島へのアクセス★

	大型船	航空機/小型飛行機	ヘリコプター	その他
三宅島	竹芝から6時間30分	調布から小型機で50分	大島から20分	-
御蔵島	三宅島から50分	-	三宅島から20分 八丈島から25分	-
八丈島	御蔵島から2時間50分	羽田から航空機で55分	御蔵島から25分	-
青ヶ島	-	-	八丈島から20分	八丈島から連絡船で2時間30分

### ★気温、降水量(令和3年)★

観測地	年間平均気温	8月の平均気温	1月の平均気温	年間総降水量
三宅島	18.7℃	27.2℃	10.6℃	3,107mm
八丈島	18.4℃	26.4℃	10.7℃	2,985mm
参考：東京	16.6℃	27.4℃	5.4℃	2,052mm



## 伊豆諸島の『生活を支える翼』ヘリコプター 東京愛らんどシャトルを運行している 東邦航空株式会社 様からPRいただきました！

東邦航空が愛らんどシャトル便を運航させていただいてから今年で29年を迎えます。

八丈島を運航主基地に大島、利島、三宅島、御蔵島、青ヶ島を毎日1往復(10便)、島の皆さまの大切な生活路線として運航しており、総飛行時間は 30,000 時間以上、ご利用いただいたお客様は延べ43万人となっています。現在は、米国のシコルスキー・エアクラフト社製S76型ヘリコプター2機を交互に運航していますが、内1機が就航から20年、飛行時間が 10,000 時間以上となりました。その機体に代わり令和4年12月から、イタリアのレオナルド社製AW139型ヘリコプターが新運航機として就航する予定です。AW139型ヘリコプターは最新の安全基準に基づき製造されているヘリコプターであることに加え、現行のヘリコプターに比べて客室と窓が大きくなっています。ご利用のお客様は、広く快適な客室から島々の景色をお楽しみいただけることと存じます。

私共、東邦航空はこれからも島の皆さまの『生活を支える翼』として、安全かつ快適に、そして安定した運航をご提供することにより、一人でも多くのお客様にご利用いただけるようその責務を果たしてまいります。



三宅島三宅村神着 937 番地 ☎ 04994-2-0016

日本の40年後の姿であろう高齢化率4割弱の三宅島にあって、島民と多くの観光客の生命を預かる島で唯一の診療所です。通常診療のほか、365日24時間の急患に対応しています。大人から子供まで、すべての島民の健康維持に努めています。



診療科目	総合診療科	病床数	12床
医療従事者数	医師:3人、看護師:9人、薬剤師:1人、放射線技師1人、臨床検査技師:1人、臨床工学技士:2人		
訪問診療/訪問看護	訪問診療:可、訪問看護:否		
特殊診療	人工透析、在宅酸素療法		

● 三宅村 data

- ・都庁からの距離:180km
- ・面積:55.20k㎡ (ガクアジサイ)
- ・人口(R4.4.1現在):2,272人
- ・訪島者数(R3年間):27,040人



(ガクアジサイ)

三宅村国民健康保険直営中央診療所 スタッフインタビュー



看護師 K・Yさん



『島に1つの診療所で、オールマイティーにいろいろ学べるところが魅力的』

以前は本土の総合病院で働いたり、興味があって海外で勉強したりしていました。本土の総合病院だと、患者様は患者様という感じで距離があるんですけど、こちらの診療所では、患者さんが身近な存在でご近所の方という場合もあります。本土では診療科によって別々の診療所を受診しますが、ここでは島に一つの診療所なので、本当にオールマイティーで、いろいろ学べるのが魅力的です。

入院病床もありますが、基本的には外来の診察介助が中心で、入院の方がいる場合には一般的な病棟業務もあります。あとは往診などもするので、先生と一緒に訪問して診察ということもあります。

夜勤もあり、スタッフの人数にもよりますが、通常は4〜5回程度で、私の場合は子供が小さいので、回数を減らして貰っていて、月に2〜3回あります。

入院がない場合でも、24時間電話受付をしているので、調子が悪くてどうしたら良いかとか、今すぐ受診したいという時には、その日の当番の医師に連絡をして、受診をしてもらう場合は介助などをします。

勤務時間は、朝8時半から17時15分までです。9時から外来がスタートするので、それまでは、夜勤からの申し送りを受けたり、受付をした方の情報収集をして電子カルテで確認したりします。12時位までで午前中の診察が終わり、午後からは予約の患者さんの診察とか、曜日によって小児の定期予防接種とかの準備や介助をしたりします。



スキルアップについては、昨年度から都立広尾病院がWEB研修を主催してくださっているので、それに参加したりとか、興味のある分野の一般の講座を自分で受けて勉強したりしています。コロナが収束すれば、本土での研修にも行けるようになるかなと思っています。

三宅島は、派手な観光スポットは少ない島ではあるんですけど、季節によって採れる食べ物とか自然の移り変わりで景色も変わってくるので、長くいると良さがわかります。長くいるといろいろ島の良さが見えてくると思いますので、ぜひいらしてください。



薬剤師 A・Aさん



『ごく自然な多職種連携で流れが良い、予想以上の患者支援にやりがいを感じています』

これまで調剤薬局と病院のどちらも勤務した経験があります。本土では、いろいろな職種の方と“連携”をして意識して上手くいくようにしている点が多かったのですが、こちらでは、そんなことは当たり前という感じなんです。電話しておくことが当たり前だったり、この人に話しておくことが当たり前だったり。もう流れができていますね。すばらしいって感じました。それから、思っていた以上に、とてもやりがいがありますね。仕事を引き継いだ時は、午後は暇な時間もあるかもね、みたいなことを言われましたが、実際は暇ではなく、それだけ患者さんに関わりが持てていることに、私はやりがいを感じています。

普段は午前中に、入院患者さんのお薬のことや外来の患者さんの院外処方箋の確認をしています。午後はいろいろなんですけど、発熱外来の患者さんの対応や、近所の薬局と連携を取って、患者さんが処方箋をきちんとお持ちいただけたかどうか、そのチェックなどを行っています。



新薬等の情報は、薬の卸さんが薬を郵送してくれる時に、新しい薬の情報を一緒に入れてくれます。電子カルテになったのは一昨年の春からなのですが、その前までは情報の不足を感じていました。しかし今は、卸さんが郵送してくれる新薬の情報を見ながら、情報を書き換えたり、新しい情報を入れたりしています。また、ジェネリックについても、電子カルテに記録することですぐにわかるようになって、とても便利です。

研修については、以前は年に数回、本土に研修に行っていました。コロナ禍になってからはWEBでの研修が



いろいろ出てきて、有難いと思っています。ただ、薬剤師は、勉強をしてそれをまとめて、何年か毎に更新をしていくというのがあるんですが、それがなかなか上手いかずに苦戦している状況です。

三宅島の自然に関しては、本当に良いところが満載です。海もとてもきれいですし、山もおすすです。天気あまり良くない時に行っても、しっとりとしていつまでもそこにいられるので、わざわざ雨の日に出かけてみたりしています。行くところ行くところで魅力満載ですので、ぜひいらしていただきたいです。



### 臨床工学技士 S・Yさん

#### 『離島ならではの不便さに対応しながら透析医療を担う。災害時のBCP（事業継続計画）も検討中』

以前は200床くらいの病院にいました。

本土との一番の違いは、やっぱり物が入らない。本土であれば代理店さんに電話一本掛けて、機械が壊れた、明日使うから何とか…と言えば、その日のうちに駆け付けてくれるわけですが、やっぱりそこが違いますよ



ね。呼ぶにしても1日2日かかってしまう、というのが本土とのギャップです。

診療所の医療機器は、そもそもメーカーに任せるとするのが主流なので、メンテナンス契約を中心に行っているんですけど、船が欠航とかすると1週間は来ないという可能性もあるので、ある程度自分たちでしないとダメだと思っていますが、なかなか難しいところです。

透析医療について、三宅村には透析の患者さんが6名いて、月水金と火木土で、いずれも午前中に3人ずつ来ています。患者さんは皆さん元気な方が多いので、ご自身で来るかたがほとんどで、ご家族さんとの関わりはそれほどありません。午前中で透析業務が終わるので、午後は医療機器の点検や雑用ですね(笑)。本当にいろいろなことをしています。

人工透析では水をたくさん使いますが、災害などで、もしも断水したらそれは困ります。前の職場ではBCPを作っていたので、ここでも作っているところなんですけども。何かあれば今は広尾病院さんにお世話になっていますが、東京直下型になると都内の病院自体が無理なんじゃないかと、そこをどうしましょう？というのを先生と時々話しています。もし本土に送ることができなくなれば、大島や八丈島など透析ベッドがあるところに透析依頼という形が一番安全かなという気がするんですが。例えば透析液の備蓄がなくなってしまう、という時に、本来であれば運送会社が運んでくれるのですが、運送会社が運べない時に、横のつながりがあると心強いなと思っています。

三宅島の自然は、景色が良いですね。朝、きれいに富士山が見える時があります。それから星がとってもきれいです。



## 公立医療機関紹介 ②

### 御蔵島村国民健康保険直営御蔵島診療所

御蔵島村

☎ 04994-8-2206

「みんな顔見知り」。人口約300名の御蔵島ではこれが当たり前です。小さいからこそ経験できる「地域医療」がそこにはあります。「小さいけど大きな魅力がある」それが御蔵島診療所です。



診療科目	内科、整形外科、小児科、歯科	病床数	2床
医療従事者数	医師:1人、看護師:2人		
訪問診療/訪問看護	訪問診療:否、訪問看護:否 (いずれも検討中)		
特殊診療	なし		

#### ● 御蔵島村 data

- ・都庁からの距離: 199km
- ・面積: 20.51k㎡ (サクユリ)
- ・人口(R4.4.1現在): 284人
- ・訪島者数(R3年間): 6,860人



八丈島八丈町三根 26 番地 11 ☎ 04996-2-1188

羽田空港からジェット機で5分。花と緑と温泉の島、八丈島に当院はあります。東京都の離島において唯一の病院である当院は、産婦人科や小児科を常設し、離島でも安心して子供を生み育てられる環境が整っていると同時に、リハビリテーション室の充実を図り、地域包括ケア病床を開始する等、より住民のニーズに応えられる病院を目指し、職員一同頑張っています。



診療科目	内科、外科、産婦人科、小児科、リハビリテーション科、整形外科、皮膚科、耳鼻咽喉科、精神神経科、甲状腺内科、腎臓内科、糖尿病科、消化器内科、循環器内科、神経内科、眼科、泌尿器科	病床数	54床
医療従事者数	医師:7人、看護師:25人、助産師:2人、薬剤師:2人、放射線技師2人、理学療法士2人、臨床検査技師:1人、臨床工学技士:2人、栄養士:1人		
訪問診療/訪問看護	訪問診療:否、訪問看護:否		
特殊診療	人工透析、腹膜透析、在宅人工呼吸療法、在宅酸素療法、輸液ポンプ貸出		

● **八丈町 data** (ハイビスカス)

- ・都庁からの距離:286km
- ・面積:69.11k㎡
- 人口(R4.4.1現在):6,976人
- ・訪島者数(R3年間):64,631人

国民健康保険町立八丈病院 スタッフインタビュー



看護師 K・Aさん

『海がすぐ近く、自然豊か、生活に困らない、

住めば都の八丈島で患者に深く接する病院看護』

以前は本土の病院の集中治療室で勤務していました。結構流れ作業というか、一番危ないところを脱したらすぐに病棟に移ってしまうので、患者さんやご家族と深く接する機会がありませんでした。ここにきてから、一番悪い状態で入院してきたところから退院までの経過をしっかりと看ることができるというのが初めての経験でした。最初はベッドから起き上がることもできなかったかたが、自分で車椅子に移って受診に来院されて、病棟にも顔を出してくれたことが印象に残っています。本土では患者さんは行きたい病院を選ぶことができますが、八丈島では、入院しないといけない状態になったら町立病院に入院するか、本土の病院に行くこととなりますが、その場合でも紹介状を書くことになるので、ほとんど必ず八丈病院を通ることとなります。入院する患者さんや再度入院する患者さん、それから患者さんの家族との繋がりができていくので、いい意味でアットホームだと



思っています。島言葉があって、いろんな言葉を教えてもらったり、おじいちゃんおばあちゃんと会話したりするのも楽しいです。

地域に密着した病院で、患者さんと看護師が家族であったり、同級生が入院してきたりということが多い環境なので、個人情報を守るという意味



では大変なこともあり、そこはいい意味での距離感をもっていきたい。小さい病院ならではのと思いますが、普段からコミュニケーションを取っていこうという雰囲気があって、いざというときにしっかり協力ができることがあるので、いい関係を築いていきたいです。

八丈病院にきたタイミングでコロナ禍になり、集合研修は本土でもなくなった時期でした。都の看護協会が主催して、コロナに関する研修を7島をつなぐリモート研修で受講しました。オンライン研修というやり方があるんだなど、正直面白いし、今の時代に合ったやり方で、離島でも特に問題なくスキルアップをしていけると思いました。

八丈島には、海が大好きなので来ました。どこからでも少し行けば海という環境が良いところだと思っています。自然豊かなところですが、生活に必要なものは揃っているし、通販で買い物もできて、生活に困ることは今のところありません。来てみたら都だなあと感じています。



看護師 F・Yさん

『“お陰でうれしくなったよ”の島言葉が嬉しい、

働きやすく住みやすい島』

以前は関東の病院で働いていました。島に一つしかない病院なので、6年も住んでいると知り合いが増えて、来る人来る人がみんな知り合いだったりする。入院する人も外来の人も知り合いという状態は、本土では絶対なかったので、これが一番の違いだと思う。それから、普段は、落ち着いている日だと残業がなくて定時で上がれます。本土だと





なかなかないですよ。残業もなくてプライベートの時間をしっかりとれるのはすごく良いと思っています。

島の人との距離が近い、自分の娘みたいに話しかけてくれるので、患者さんとの関係も家族みたいにアットホームなところが魅力の一つです。大変さとしては、どんどん知り合いが増えていくので、気を遣う部分はあります。

本土の病院では、働いている職員も多いので、他の職種の方と仲良くなる機会も少なかったと思いますが、ここではいろいろな職種の人と話す機会が多いです。

仕事は、主に病棟で働いていて、患者さんのケアや入院対応をしたり、処置をしたりしています。基本三交代で、日勤は8時から16時45分までですが、育児があるので時短で働いています。夜勤は小学校に上がるまでは免除してもらっています。時短勤務も取りやすいし、他の職員も含めて残業がほとんどないので凄く働きやすい環境だと思います。



患者さんが元気になってありがとうと言ってくれたりするとやりがいを感じます。八丈島の島言葉で、体がつかったのが良くなったことを「うれしくなった」と言いますが、患者さんから「お陰でうれしくなったよ。」と言われると、こちらも嬉しくなります。

八丈島には海にあこがれて来ました。看護師でもダイビングをやる人もいますし、ダイビングをしなくてもシュノーケリングで泳いでいるだけで亀に会えたりします。それから、島には娯楽施設があまりないので、島の人はお酒を飲むのが好き。島の料理を食べながら、島の焼酎を飲むというのもおすすめです。

## 診療放射線技師 S・Hさん



『地域密着の救急医療に従事、

オフはしっかりリフレッシュしてまた頑張れる』

学校を卒業して大きな病院で働いて救急などの経験を積みました。その後はクリニックで自分の時間を大切に働いてきて、今はまた救急医療の現場に戻ってきました。具体的には、通常のレントゲン写真、CT検査、バリウム検査等を行っています。前に勤務していたクリニックも地域密着だったので、すんなり地域に馴染むことができましたが、顔なじみが増え過ぎてしまって、お友達同士という関係性にならないように気を付けています。

以前は、救急の患者さんが来られるので、なかなか休みを取りにくく、研修に出にくいということはありませんでしたが、最近はオンライン研修も増えてきて、実地の研修と違って機器を扱うことができなくても今までの経験を踏まえていろいろチャレンジできるので、楽しみながら勉強しています。

また、八丈病院では本土からいろいろな先生が来ているので、今の本土での撮影方法について先生からお話を伺うことで学んでいます。

八丈島は、ちょっと海でも見ようかとか温泉に入ろうかといった気分転換がとてもしやすいところだと思います。天気がいいと綺麗な夕焼けをずっと見ていることもできるので、

嫌なことがあってもすぐリフレッシュして、また頑張ろうという気持ちになれます。オンとオフがしっかりできるというのはなかなかないので、このまま続けていけたらなと思っています。



## 公立医療機関紹介 ④ 青ヶ島村国民健康保険青ヶ島診療所

青ヶ島村無番地 ☎ 04996-9-0123

青ヶ島診療所は役場の隣「おじゃれセンター」の1階にあり、島で唯一の医療機関です。青ヶ島は伊豆諸島の中でも交通が不便な小離島ですが、近年は来島者も増え、観光客の受診も増えてきました。患者一人一人とじっくり向き合える環境です。



診療科目	総合診療科、歯科	病床数	2床
医療従事者数	医師:1人、看護師:1人		
訪問診療/訪問看護	訪問診療:可、訪問看護:否		
特殊診療	在宅酸素療法		

### ● 青ヶ島村 data

- ・都庁からの距離: 358km
- ・面積: 5.96k m<sup>2</sup>
- ・人口(R4.4.1 現在): 149人
- ・訪島者数(R3年間): 2,709人



(シマホタルブクロ)

### 東京都へき地医療支援機構 無料職業紹介事業所

へき地医療機関での勤務に御興味のある方は、ぜひ、東京都へき地医療支援機構が運営する無料職業紹介事業所のホームページをご覧ください。

[https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/iryoy/iryoy\\_hoken/ritousankan/hekiti\\_shokai.html](https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/iryoy/iryoy_hoken/ritousankan/hekiti_shokai.html)

